

八代市長 中村博生 殿

令和4年5月17日  
八代市厚生会館のホール再開を求める会  
代表 森精一  
八代市本町1-6-15  
連絡先 090-1701-3353 (事務局・櫻井力助)  
0965-32-6188 (森精一)

## 八代市厚生会館前庭に駐車中の車両移動 及び ホール視察に関する要望書

現在、八代市厚生会館の前庭に多くの車両が駐車しています。市役所を新築後、仮庁舎を撤去する9月までの間、市役所職員や工事関係車両などの駐車場として使われている、と聞き及んでいます。

ただ、前庭は建築家・芦原義信氏の設計において、「外部空間」を形成する重要な「(建物のない) 建造物の一部」です。

厚生会館は2020年度に国際学術組織から「後世に伝えるべき、20世紀を代表する名建築」と選定されました。選定建造物となったこと、八代市民俗伝統芸能伝承館や新市役所の完成などから、この一帯は建築物の鑑賞エリアとして注目され、市外からも見学に訪れる人が増えています。芦原建築の「外部空間」に関心のある人から見ると、伝承館前の「駐車場」はガラ空きなのに、隣の前庭にわざわざ多数の車が駐車している異様さは、「行政側の無知を披歴している」と指摘が相次ぐ残念な状態です。市民から見ても、とても不自然な状況です。

1988年から始められた「くまもとアートポリス」プロジェクトでは115件が竣工しており(2022年1月現在)、「県全体が建築博物館である世界にも類を見ない地域」として海外のメディアでも紹介されており、高い評価を得ています。プロジェクトのコミッショナーである伊東豊雄氏設計の八代市立博物館をはじめ、厚生会館一帯は、江戸から昭和、平成、令和の名建築が回遊可能なエリアに集まり、「くまもとアートポリス」事業で注目される熊本県内においても、特に恵まれた環境にあります。

八代市が、「八代市厚生会館」の価値を本当に理解し、発信して文化・観光の発信・浮揚につなげようという意志があるのであれば、是非とも現在駐車中の車両を移動し、緑地を復旧し、「外部空間」としてその価値を尊重・発信することを要望いたします。私たち市民も、そのための労は惜しまず協力する所存です。コロナ禍もあり、伝承館前の広々とした駐車スペースは仮庁舎解体までその代替として十分に使える余地があると考えます。

また、休館中の厚生会館の内部について先日、八代市文化協会の視察を受け入れたと聞き及んでいます。今後も厚生会館を存続・維持していくお考えが八代市にあるならば、内部視察の希望者があれば、広く受け入れていただくよう要望いたします。